

10 付近図

<p>小学校区 福山市立山手小学校 人口 5,534人 人 事業所数 0 事業所 2021年3月現在 利用定員 0 人</p> <p>※避難経路は別紙参照</p> <p>付近図掲載せず</p> <p>凡例 ○ … 事業所 × … 同様の事業所 △ … 一次避難先 □ … 二次避難先</p>	<p>意見</p>
--	-----------

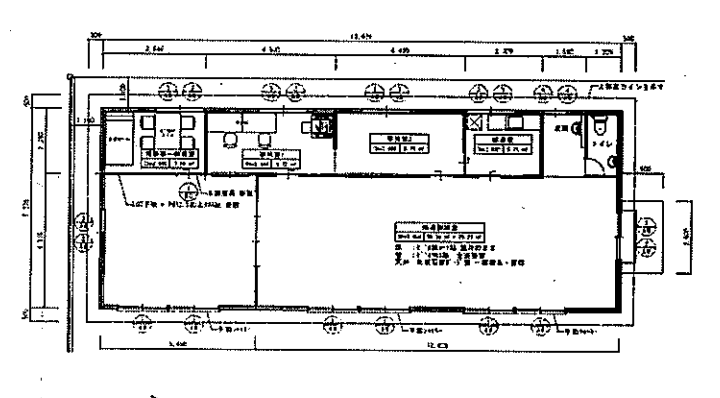
12 事業計画

<p>事業方針 ・生活力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進を高め、他者との関わりを通して、社会との交流を育む。 ・利用者の心身及び家族の状況に応じ、児童の日々の行動改善や自立に向けた教育・支援の提供を行う。 ・障害の特性や発達段階に応じて適切なアドバイスを行う等、寄り添った支援を行い、家族支援への取り組みも強化する。 ・具体的なサービスを提供できるよう職員間の専門性の向上を図る。 ・従事職員の資質の向上を図るため、研修の参加・勉強会等を行う。 ・健康状態の確保。 ・障害児の日常生活における支援等に関する相談及び助言を行う。 ・提供する支援の質の改善を行い、常にその改善を図る。 ・その他必要な実施を行う。</p> <p>事業所名及び所在地 事業所名:3Piece 所在地:広島県福山市山手町二丁目16-27 運営時間 平日:10時00分～19時00分 祝日、学校休業日:9時00分～18時00分 サービス提供時間 平日:14時30分～17時30分 祝日、学校休業日:10時00分～18時00分 従事職員の人数 指導者児童指導員 1名 児童発達支援管理責任者 1名 児童指導員又は保育士 2名 随行者の特定 なし 利用年齢 小学校1～3年生 (あくまで目安となる年齢であり、小学生～高校生まで幅広く受け入れをおこなう) 職員利用者手続数 30名 サービス提供予定利用者延べ人数 1月あたり約33.4人(※収入の換算額となる人数) 施設文字等運用管理費のとり 無 プログラム内容 ・外出活動 山手東田中公園や山手コミュニティなどに出向き、ストレッチやランニング・縄跳びやボールを使った体づくり、心と体のバランスづくり 様々な場所での外遊びの体験を通して、体の動かし方、身の守り方を教える。 ・ソングやダンス、ゲーム 日常生活や学校生活のなかで起こりうる身近な場面・事例を提示し、 この例にはどんな危険があるのか?どう対処していくか?どんな考え方があろうかを集団でのグループディスカッションで考え、話し合いをおこなう。 指導員はただ結論や正解を教えるのではなく、考え方についてのアプローチをおこなう。社会で生きていく力を養う。 例:①子ども同士で滑ったつづつ滑った隙を見てぶつかったらどう思うか?ぶつかった時に何と答えるのが良いか?などどうするといのか、ぶつからないように?などを育て話し合わせる。 ②子どもが廊下を走っている様子をみて、どう危険があるか、どうするべきかなどを話し合わせる。 ③あいさつをしなかったら周りの人はどう思うか?と指導員が問いかけ、自由に意見を述べてもらい、あいさつの重要性に気づかせる。 ・創作活動 手先を使う(はさみで切る、など)作業を通して、手先の感覚を養い、原始反射の統合を図る 物語を行い作る作業の中で集中力を高め、想像力をつちかう 作った物で遊ぶことでルールを学び、安全性の意識を高め、また、その片づけをさせることで整理整頓が出来るまでの流れをつくる。</p>	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3年生(低学年)を主な対象としている中で、ソーシャルスキルに時間を多く割く目的は何か。 ・原始反射が残っている子どもへの支援として、具体的にどのような活動を想定しているか。理学療法士等との連携を想定しているか。 ・子育てや保護者への支援を動機にあげているが、具体的にどのような支援を行うのか。 ・心と体のバランスづくり、危険から身を守るための支援を行うとあるが、誰のどのような経験に基づき実施する予定か。
--	--

13 利用者処遇

<p>別添のとおり</p>	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質の向上に努めること。
---------------	---

11 平面図

<p>※平面図のデータを貼付</p> 	<p>意見</p>
---	-----------

14 防災計画

<p>施設の安全化 災害発生時に自らの安全性を確保できない通所者のため、いざという時に備えて安全な施設環境を整備する。 1.施設の耐震化 2.施設の立地環境と風水害の予測予防 3.避難経路の確保 4.屋内・屋外の安全対策 (1)窓ガラスは飛散防止フィルム等で補強する。 (2)棚品(ロッカー、棚、大型電気製品)等の転倒防止対策をする。 (3)天井からの落下物(照明器具や壁掛け時計など)は、取付状態を確認する。 (4)窓の亀裂等の点検を行う。</p> <p>通所者の安否確認及び保護者等との連絡体制 (1)災害発生時には通所者全員の施設内外の居場所を確認し、安否確認をする。 (2)団块たちの安全を確保し、保護者に引き渡すまで保護する。 (3)安全確保のため公約機関(広域避難場所)に避難する(小・中・高等学校及び公共施設・公園等) (4)原則として車両の移動はしない。 (5)避難場所への移動、引き取り場所の設定及び連絡は施設管理者の判断で行う。 (6)子どもを引き渡すは、原則として保護者とする。 (7)災害発生時連絡がつかりにくい状態になった場合は災害用伝言ダイヤル171や災害用伝言板を使う。</p> <p>防災教育及び訓練 (1)避難訓練にあたっては、通所者の障がいの特性に応じた適切な対応を訓練する。 (2)地域住民に対し、普及から障がい者の理解に努め、万が一の際に相互協力ができる関係を構築する。</p>	<p>意見</p>
---	-----------

15 一日の流れ(平日)

<p>別添のとおり</p>	<p>意見</p>
---------------	-----------

事業計画書

□当初 ■最終

作成年月日 令和4年6月14日
法人名 株式会社Grow Up
代表者職名前 代表取締役 佐藤 裕隆
担当者名 速橋 光

1 協議事項

事業種別 放課後等デイサービス
事業所名 3Piece
開設(変更)予定日 2022年7月1日

計画の概要
本計画書に記載が必要な項目
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
■新規事業所の開設
□事業の追加
□大規模な事業内容の変更
□事業所の移転
□建物の構造・設備の変更

2 事業実施に係る動機

本計画の中で、事業所が子どもとのかかわり方や、そして子育てでも悩む方が多いと認識しています。
放課後等デイサービスは、子どもとのかかわり方や、そして子育てでも悩む方が多いと認識しています。

3 提供サービス

種別 ①放課後等デイサービス
割合 100%
理念 日常生活や遊びの中で地域住民の統合を主に行動支援・コミュニケーションスキルの上を目指し未来に向け創造する機会を。
目標 子どもの発達を促す中で、異年齢や発達障害・コミュニケーションスキル向上を目指し、安心して過ごせる空間づくり。

4 施設の概要(平面図は裏面のとおり)

土地 所在地 広島県広島市山手町2丁目10-27(466㎡)
用途区域 準工業地域
主要取引先
申請種別 □新築 □増築 □用途変更 □移転 ■その他

5 主要取引先

上段:取引先 下段:所在地
割合 掛取引 回収・支払の条件 主な修正点

6 従業員

職種 雇用形態 名前 年齢 月給 主な修正点
管理者 常 A 4 3 22 万円
児童発達支援管理責任者 常 B 3 8 20 万円
児童指導員(管理系と兼務) 常 非 A 4 3 22 万円
保育士 常 非 C 2 6 21 万円
保育士 常 非 D 4 3 21 万円

7 借入金の状況

金融機関 理由 借入残高 年間返済額 意見
(予定) 1 0 0 0 万円 - 万円
(予定) 3 0 0 0 万円 - 万円

8 必要な資金と調達方法

必要な資金 金額 調達方法 金額 主な修正点
土地 0 万円 補助金 0 万円
建物 4 2 5 万円 自己資金 3 0 0 万円
設備 3 0 万円 借入金 1 3 0 0 万円

9 事業の見通し

1月目 2月目 3月目 1年後
利用者見込 A 6 3 人 8 8 人 1 1 0 人 2 1 0 人
月平均利用額 ※1 (1人当たり)
収入計 84 万円 84 万円 84 万円 84 万円
支出計 139 万円 139 万円 139.5 万円 139.5 万円

※1 月平均利用額(1人当たり)の積算根拠
基本報酬(サービス費)+全ての加算について記載すること

※2 給付金は、サービス提供月の翌月に振り込まれるので留意すること(例:4月サービス提供→5月請求→6月振込)
※3 主な受注作業取引先(生産活動を行う場合に記入)

上段:受注先 下段:所在地
1月当たりの受注額 契約書の有無 回収・支払いの条件
生産品 1時間単価 計算式 1月当たりの生産額

※4 雑経費:消耗品、光熱水費、車両管理費、研修費、宣伝広告費、租税公課、社会保険料、レンタル料等

様式第2号-2

受付印
受付印省略

